

東京 2020 オリンピアン・パラリンピアン記録

東京 2020 オリンピアン・パラリンピアン記録

—工藤恭子—

工藤恭子

【経歴】

2016年～2019年 私立秀明英光高等学校

2019年～2023年 日本体育大学

スポーツマネジメント学部スポーツライフマネジメント学科

【競技歴】

2019年 第30回ユニバーシアード競技大会 6位

2019年 FINA 水球世界ジュニア選手権 2019 13位

2021年 FINA 水球ワールドリーグスーパーファイナル 2021 7位

2021年 東京 2020 オリンピック大会 出場

2022年 AASF アジア選手権 2位

1. 競技との出会い

私が水球競技と出会ったのは小学5年生です。4歳から母や兄の影響で水泳を始め、小学4年生の時にジュニアオリンピックの出場権を得ました。しかし、東日本大震災の影響により大会が中止になり、獲得した出場権が無くなってしまいました。その事で一旦私は水泳への熱が冷め、他の競技に興味を持ち水球を始めました。小学5年生からクラブチームに通いましたが、身が入らず小学6年生で一度辞めてしまいました。その後、中学生では学校のテニス部に入部し、初めて陸上で行う競技に挑戦しました。今までの水中の競技とは違うスポーツの楽しさを感じられましたが、何か自分には合わないと感じ、中学2年生で辞めました。陸上で行う競技を経験し、自分にはやはり水中の競技の方が合うのではないかと思います。いとこからの誘いもあり、中学3年生の時水球を再度始めました。再度始めた水球では今まで感じた事のないスポーツの楽しさを感じられ、もっと上手

になりたいと思い、練習に励んでいました。水球はマイナースポーツという事もあり、競泳では出場が難しかったジュニアオリンピックに簡単に出場でき、また結果も3位と好成績が残せました。もっと上手になりたいと思い、高校は水球全国1位の高校に進学しました。ですが、高校では全員が高いレベルという事もあり、なかなか試合に出場することができず、苦難の日々を送っていました。自分には何が足りないのか分析を行ったり、他の選手のプレーを真似してみたり、試行錯誤していました。そこで分かったのは、自分は「泳ぎ」を武器にプレーすると得点やチームに貢献できるのではないかと思います。そして、泳ぎを活かしたプレーを磨いたところ、試合に出場できる回数が増え、チームにも貢献できました。日本体育大学に進学し、「泳ぎ」を活かしたプレーを続けたところ、大学3年生で初めて日本代表に選ばれ、東京オリンピックにも出場する事が出来ました。

一度水球競技を辞めても、水球に戻ってこられた環境、親の支えがあったからこそ、ここまで続

けられたのではないかと思います。

2. 日体大の思い出

日体大での思い出は3つあります。1つ目は水球です。私はこの4年間水球漬けの毎日でした。練習は授業がある日は2部練習、休みの日は3部練習で、4年間を振り返って見ると楽しいことよりも辛い事の方が多かったと思います。ですが、一言では表せないくらい充実した4年間でした。毎日水球ができる環境、お互い切磋琢磨してきた仲間、熱心に指導していただいた先生方、辛い時苦しい時に励ましてくれた同期に感謝したいです。

2つ目はスポーツマネジメント学部の授業です。私がこの学部に入った大きな理由は日体大で1番多くの資格を取得できることでした。また、私自身が学びたいと思っていた生涯スポーツや地域の健康増進など、さまざまなスポーツライフについて学べる点も大きかったからです。そのなかでも、私が好きな授業が実習でした。もともとこの学科は実習が多く、なかなか体験できないことを具体的に学べるので、とても良い経験になりました。また、実習は人と関わる場面が多いのも特徴です。自分の意見の伝え方、相手の気持ちや場の雰囲気の読み取り方などが自然に身に付き、人間力の向上にも繋がりました。それだけではなく水球においても、実習や授業を学んでいくなかで自分の意見の伝え方や相手の気持ちなど、自分のプレーだけではなく周りの人にも気を配るようにもなりました。今後はこの学科で取得した資格や経験を活かして行きたいと思います。

3つ目は寮生活です。私は日本体育大学健志台キャンパス桜寮に4年間住んでいました。そこには同じ水球部の選手だけではなく、健志台キャンパスにある様々な競技の選手も住んでいました。そこで様々な競技での日本のトップクラスに位置する選手から、様々な考え方や練習方法やモチベーションの保ち方など、今までに聞けなかった

事を聞く事ができました。また、練習やスポーツのことだけではなく、練習で忙しい中での勉強への取り組み方や、食事の管理法などは間近で見ていて勉強になりました。寮での生活は本当に毎日刺激が多かったです。練習や授業だけではなく、寮の中でも有意義な学生生活を過ごす事ができました。

3. オリンピックの感想

まず、東京オリンピック大会を開催して頂けた事にすごく感謝をしています。予定では、2020年に開催されるはずの東京オリンピックが、新型コロナウイルスの影響により延期と報道が出た時、私の率直な感想としては、ここまで積み上げてきたものが全部無駄になってしまったと思いました。東京オリンピックのメンバーに入る為に、強度の高いトレーニングを積んで、食生活も気をつけていたのに、その努力が全部無駄になってしまったと思いました。大学での練習も出来なくなり、家の周りのプールも閉鎖され、家の中だけでの生活が3、4ヶ月続きました。3、4ヶ月水球から離れ、料理を作ったり、絵を描いたり、様々な事に挑戦したところ、心も体も良いリフレッシュになり、結果的に延期になって良かったのではないかと今では思っています。新型コロナウイルスの影響が無く2020年に開催されていたら、自分自身が切羽詰まった状況でメンバーに選ばれるかも分かりませんし、良いプレーが出来ていなかったのではないかと思います。

新型コロナウイルスが少し収束した時、大学での練習や代表活動が再開しました。リフレッシュの影響もあり、水球の楽しさを再度感じ、オリンピックに向けモチベーションを常に高く維持する事が出来ました。今まで日本の女子はアジアの予選を突破できず、出場権を得る事が出来ませんでした。ですが、2021年に開催された東京オリンピック、水球は開催国枠という形で出場する事が出来ました。

東京オリンピックでは、予選敗退とチームとして良い成績は残せませんでした。自分の武器である「泳ぎ」を活かしたプレーが海外の選手相手に少し通用した部分が見られたので、悔いなく終える事が出来ました。このコロナ禍の中、大会を開催していただいた事、とても感謝しています。私達選手が全力で競技に取り組めたのは、大会関係者、医療従事者、自衛隊の方々、警察の方々、ボランティアの方々のお陰です。そしてなによりも、日本代表選手団を応援して下さいました皆様。画面越しではありますが、皆様の応援が力となり最後まで諦めずに戦う事が出来ました。本当に感謝しています。このような素晴らしい大舞台でプレー出来た事は、とても良い経験になりました。有難う御座いました。

4. 今後の目標

私は新型コロナウイルスの影響もあり、去年の11月に東京オリンピック後初の国際試合に出場しました。決勝戦ではアジアの中で最大のライバルである中国との試合でした。結果は破れ準優勝という結果になりましたが、自分が納得のいくプレーをする事ができました。

私はこの試合を最後に水球選手として一区切りをつけ、今年からは新しいスタートをします。新しい環境になり、挫折する事や苦勞する事がこれまでよりも多くなると思いますが、水球をやってきた時と同じように努力する事や積極的に色々な事に参加して挑戦して行きたいと思っています。

また、水球はヨーロッパではメジャーなスポー



ツですが、日本ではまだまだマイナーなスポーツです。少しでも水球の普及に繋がるような活動にもこれから参加していきたいと思っています。

5. 日体大生へ一言

私は大学1年生の時から日本代表合宿に参加をしていましたが、試合に出る事ができませんでした。それでも試合に出るために努力して3年生の時に小さい頃からの夢でもあったオリンピック出場が叶いました。日体大の学生のみなさんも、これから大きな挫折や辛いことがたくさんあると思います。私も、プレーで調子がいい時に大きな怪我をしてしまい調子を崩してしまった時挫折をしました。しかし、リハビリや怪我をしてもできる練習に積極的に参加した事により復帰した際にすぐにスタメンを取ることができ、いい成績を収めることができました。そこで必死に努力した事が報われたと思いました。自分が努力を辞めることによって、個人の成績はもちろんチーム競技でも思った成績や結果が出ないと思います。そういった時こそ努力する事を忘れないでください。時間がかかるかも知れませんが自ずと自分が思う成績や結果が必ずついてきます。

努力し続ける事はとても難しいと思います。ですが、私はスポーツをする上で努力する事が1番大切だと思います。日体大の皆さん挫折した時や辛い時も努力する事を忘れず自分の目標や結果に向けて頑張ってください。



(受理日：2023年3月30日)